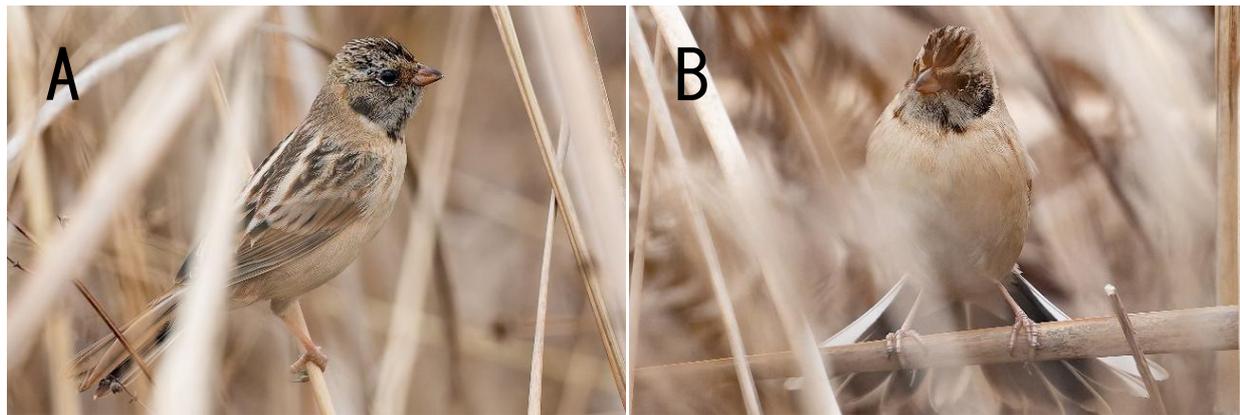


愛媛県今治市大島におけるコジュリンの観察記録

西尾喜量¹¹ 日本野鳥の会愛媛写真1 *Emberiza yessoensis* コジュリン A : 右側面, B : 正面.

種の記録

Emberizidae ホオジロ科

Emberiza yessoensis (Swinhoe, 1874)

コジュリン(写真 1)

確認記録 観察年月日:2025年12月20日. 観察場所:愛媛県今治市吉海町本庄(34.1402988N, 133.0368998E). 1 個体. 観察者:西尾喜量. 観察方法:目視. 撮影方法:望遠レンズ(焦点距離 600mm)装着の一眼カメラ.

種の特徴

本個体は頭頂部と耳羽と顎線は黒褐色で、淡褐色の眉斑が認められた。嘴峰部は黒褐色で、会合線と下嘴は肉色であった。眼の上下には明瞭な囲眼線が認められた。後頸から体上面は茶褐色で黒褐色の明瞭な縦斑が認められた(写真 1A)。胸と脇はわずかに茶褐色を帯び、胸の下から腹部にかけては淡褐色で斑は認められなかった(写真 1B)。脚は明るいピンク色で、外側尾羽 2 対の外弁が白かった(写真 1A, B)。上記の特徴からホオジロ科のコジュリンと同定した(茂田, 1992; Brazil, 2009; 真木ほか, 2014)。本個体は眉斑と喉の羽毛の基部が黒く、尾羽の一部は先端が尖り摩耗している幼羽が認められたため(写真 1A, B)、オスの第 1 回冬羽と考えられた。

備考

本種は夏鳥として中部以北の本州および九州に局地的に繁殖し、本州中部以内の沿岸で越冬する(五百澤ほか, 2014)。愛媛県内では、これまでに平野部の河川や河口のヨシ原などにおいて 5 例のみ記録され

ているが、いずれも散発的で、不定期渡来とされている(日本野鳥の会愛媛, 2024)。本記録は県内における島嶼部からの初の記録である。また、観察された時期は越冬期にあたる 12 月下旬であったことから、この地域を越冬地として利用している可能性が高いと考えられる。観察された個体は放棄耕作地のヨシ、スゲ、ガマが群生する湿地でオオジュリン *Emberiza schoeniclus* やアオジ *Emberiza personata* と一緒に行動していた。観察中、植物の種子を採食する行動がみられ、時折「チッ、チッ」と小さく短い地鳴きも聴かれた。

引用文献

- Brazil M. 2009. Birds of East Asia. Christopher Helm, London. 258pp.
- 五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸. 2014. 新訂日本の野鳥 550 山野の鳥. 文一総合出版, 東京. 416pp.
- 真木広造・大西敏一・五百澤日丸. 2014. 決定版日本の野鳥 650. 平凡社, 東京. 788pp.
- 日本野鳥の会愛媛. 2024. 愛媛県鳥類目録. 文彩堂出版, 東京. 132pp.
- 茂田良光. 1992. 形態と識別 13 コジュリン—謎のエゾエンシス. *Birder*, 6(6):46-51.

(2026年1月20日受付, 2026年1月22日公開)

連絡先:西尾喜量(e-mail: pmdgd959@gmail.com)

(Yoshitomo Nishio. 2026. Record of *Emberiza yessoensis* (Emberizidae) from Oshima Island of Imabari City, Ehime Prefecture. NS Fieldnote, 26006)